

平成29年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

教務部 平成29年度重点目標		
項目1	目標	本校の目指す学校像、平成30年度入学生からのコース改編のねらいなどを鑑み、学校全体の運営の見直しなどを行う。
	方法	教務規定を見直し、具体的には日課時限や追認定試験などの検討を行い、改定を行っていく。
		平成30年度からの実施するものと近い将来に実施するものを分けながら、迅速かつ具体的に決定し、全体への発信も行っていく。
項目2	目標	本校が目指す未来教育にむけて、最善の方策を考え、年間スケジュールの再検討を行っていく。
	方法	生徒1人1人の進路意識を向上させるために、さまざまな仕掛けを考え、年間スケジュール全体を検討していく。
		教員の研修を充実させ、生徒が「自ら学ぶ」姿勢を身につけられる質の高い授業の実現をはかる。
項目3	目標	SGH構想調書目標に従い、海外帰国生の志願者増・入学者増にあわせ、旅行やカリキュラム、宿泊行事の見直しなどを行う。
	方法	宿泊行事では、国内研修の見直しとともに、海外研修の検討をさらにすすめる。
		学校行事全体を見直し、カリキュラムの検討とともに在校生及び新入学生の志望実現の方策を検討していく。
項目4	目標	中学入試の動向や大学入試改革、新学習指導要領に対応するために、情報収集に励み、他分掌と連携しながら、行事などを学校全体に組織的にあたれる仕組みをつくる。
	方法	教務部として、外部説明会や研修会、また他校との情報交換や情報収集に積極的にあたる。
		さまざまな行事の運営マニュアルを精査し、学校全体での運営スタイルをつくりあげる。
生徒部 平成29年度重点目標(生きる力育成に向けて)		
項目1	目標	スーパーグローバルハイスクールの生徒像に求められる資質を全校で理解し、必要なスキルアップを確実に実践する。
	方法	文化祭等各種行事やワークショップの企画・実施に当たっては、極力グローバルな視点を加え、生徒達がグローバル社会において、主体的に活動できる資質を養う。
項目2	目標	将来社会人として必要な生活の基本である「7つのルール」を徹底する。全教員による丁寧な対面教育を心がけ、全ての生徒が「あいさつ」「校内美化」「遅刻防止」の基本的な生活習慣の基礎をしっかりと身につけ、学力と人間力が繋がることを目指して指導する。
	方法	躰教育(【7つのルール】の指導や「挨拶指導」、「校内美化指導」、「遅刻指導」等)を通して、基本的な生活習慣の基礎がしっかりと身につくよう指導する。
項目3	目標	道徳教育、キャリア教育、ピア・サポート学習は教則にのっとり全校でベクトルを統一する。「豊かな心」を養い、自他共に誇りをもてる学校づくりを目指す。
	方法	道徳・LHRにおいてワークショップや対象活動を効果的に配置することによって、人間的成長を促し、「思いやり」「寛容」の心を育て心豊かな人材を育成する。
項目4	目標	教育活動において「目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢」を培える場面を多様に配置する。
	方法	学園祭や生徒会活動などを通じて、「忍耐力」「協調性」「達成感」を学ばせ、主体的に生き活きと目標に向かって努力する力を培う

平成29年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

進路部 平成29年度重点目標		
項目1	目標	生徒が自ら学ぶ授業の実践
	達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る
		タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける 「メモ、うなずき、もぎとり」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践
項目2	目標	生徒の進路意識改革
	達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる
		進路ガイダンスの実施 年5回の勉強マラソンの導入
項目3	目標	教師の受験指導力アップ
	達成方法	大学入試問題の解き合いと、検討会の実施(8月)
		センター問題研究の実施 大学入試に対応した講習の充実
項目4	目標	中学の基礎基本事項の定着
	達成方法	MMT(Monday Morning Test)の実施と成績不良者への徹底指導
		妻中義塾の継続 5教科の基礎基本事項の共有
項目5	目標	2020入試改革への対応
	達成方法	英検など各種検定試験の校内受検の機会を増やすとともに、外部検定試験受検の奨励
		各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集
入試広報部 平成29年度重点目標		
項目1	目標	本校の目指す学校像、平成30年度入学生からのコース改編のねらい、およびそれに伴う入試の変更点を広く、正確に外部に伝える。
	達成方法	教員全員による塾訪問や、入試広報部員を中心とした受験教育関係者との情報交換を積極的に行う。
		平成30年度入試の変更点をできるだけ迅速かつ具体的に発信する。 学校外での説明会や校内での説明会に計画的に臨み、本校が目指している教育をより多くの方に理解してもらう。
項目2	目標	アドミッションポリシーがカリキュラムポリシーを表していることを踏まえ、本校が目指す未来教育にご理解いただいた上でより多くのご家庭に受験・入学してもらえることを目指して取り組む。
	達成方法	新たに導入する算数入試や、初日に実施する新思考力入試の目的やねらいをより多くの方にご理解いただけるよう、あらゆる機会を利用して取り組む。 できるだけ多くのご家庭に日頃の様子を直接見ていただきながら、本校が目指す教育への理解を深めてもらう。
項目3	目標	SGH構想調書目標に従い、海外帰国生の志願者増・入学者増を達成するために、海外帰国生への広報活動を積極的に実施する。
	達成方法	海外での広報活動を昨年度に続き実施し、シンガポール入試・編入試験の認知度を高める。
		国内における帰国生関連の機関に情報発信を継続的に行い、受験者の増加を目指す。
項目4	目標	中学入試の動向や、大学入試改革、新学習指導要領等の情報収集に他分掌と連携してあたり、学校全体として組織的に入試広報活動に当たれるよう努める。
	達成方法	入試広報部として、外部説明会や研修会、また他校との情報交換や情報収集に積極的にあたる。
		進路部からの大学入試改革情報、教務部からの新学習指導要領に関する情報等も合わせながら、戦略的・組織的・効果的広報活動を計画する。 各部署との連携を図り、HPやFacebook、ブログ等の媒体を多角的に活用した広報活動を年間を通じて実践する。

平成29年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

企画室 平成29年度重点目標		
項目1	目標	基礎学力定着・学力向上のために、生徒の学習意欲がわくようなしなやかな提案し、実施する。また、タブレットの導入で新たにできることを企画する。
	達成方法	妻中サクセス委員会と連携して、学習の6つの姿勢を生徒が身体化していけるようなプログラムを開発する。
		成績優秀者の表彰や掲示を恒常的におこなうことで、勝負する意識、競争意識を育成する。 ブレインエクササイズなどの「地頭をよくするコンテンツ」を随時作成し、いつでも誰でも利用できるようなタブレットコンテンツとして充実させる。
項目2	目標	「実践的英語力」をつけさせるような環境をつくる。校内で英語を利用する環境をスタンダードとする。
	達成方法	ネイティブ教員によるワンミニッツイングリッシュを継続実施する。外国語科以外の教員も英語での放送にチャレンジさせることで、生徒たちの「スピーチに対する恐怖心」を払拭する。また、日常の五心や7つのルールを英語で全員で音読するなどの新企画、English Brain Exerciseを企画する。
		帰国生を活用し、様々な活躍場所を提供する。English Broadcastやスピーチコンテスト、さらに課外で「英語しか使ってはいけない状況」をつくるような企画を実施する。 日常の学校生活において、英語を使える部分がないかどうか、外国語科と連携をしながら、SHRの日直連絡や簡単な振り返りなどで生徒たち自身が英語を使いながら学級活動ができるような形を企画して提案したい。
項目3	目標	全教員の指導力向上のために各種企画を提案する。
	達成方法	教員の指導力向上のために、各種研修や授業見学会を企画し、授業方法の共有機会や教員の自己研鑽機会を提案する。 教員それぞれが「教える目的」「なぜ教えるか」を改めて考えることができるようなワークショップを提案し、教員それぞれが相互に高め合っていけるような研修機会を設定する。
国際部 平成29年度重点目標		
項目1	目標	SGHアソシエイト校として、グローバル化に対応した教育をさらに深く研究し、国際プログラムのさらなる充実とその成果の本校教育全体への還元を進めていく。それにより、文部科学省へ申請した目標の達成に資する。
	達成方法	これまでの国際交流プログラムの校内への浸透をさらに進め、参加生徒の拡大を図る。さらにこれまでの国際交流プログラムを土台にして、より一層の海外教育提携校を増やし、短期海外での研修や中期、長期の留学のシステムを創り上げていく。これによりグローバル教育全体をさらに推進していく。
		国際交流プログラムの進行状況を共有化できるように校務運営会議でその都度、報告する。また、外国語科を中心に教科でのサポートを促す。さらに本校教員が直接、海外の提携校の責任者と交渉し、継続的なやり取りを続けることで、国際プログラムをさらに拡大、発展させていく。 Model UN, HLAB, NFLj, トビタテ！留学JAPANなどの各種のプログラムの説明会やこれまでに参加した卒業生や外部講師との積極的な交流を通して、さらにその参加者を増やしていく。
項目2	目標	本校SGH構想調書の目標である将来、留学をしたり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合では、SGHプログラムの対象となった生徒については、全員がこうしたことを考える生徒になることを目標とする。また、留学に行く生徒数について、現在は、ターム留学が4～5名程度であるが、ターム、イヤー留学は10名以上にする。
	達成方法	留学経験者による「エヴァンジェリオン活動」を積極的に行い、留学の持つ意味を生徒から生徒に伝え、周知できるように、学校のウェブサイトでの発表、説明会の開催などを重ねていく。
		外部機関、例えば、JSAFや大妻女子大学国際センター、IGS、WCEなどと積極的に連携し、留学情報をさらに充実させ、留学指導を行っていく。 英語チューターを積極的に活用し、英語チューターによる英語4技能アドバイスなども積極的に行っていく。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム、海外進学相談、留学相談などを行う。
項目3	目標	英語での教務実務、海外大学進学、留学に必要な教育実務を英語で行うシステムと人材を開発する
	達成方法	英語で教育実務を実践できる人材開発は、最も重要な点である。外部組織との十分な連携なども含め、文書の英語化、英語による校内の日常的なコミュニケーションの頻度を増やしていく。
		Collaborating Japanese teachers and English native teachers for assisting with students writing various kinds of application essays for study abroad programs, transferring to international schools or local schools outside of Japan and applying to universities in foreign countries. Collaborating and communicating with Japanese teachers and English native teachers for assisting with the editing of official school correspondence with various universities, middle schools, and our educational partners.